



Actiphy StorageServer (ASS) Linux OS 向け実装ガイド

2023 年 9 月 21 日版

内容

| | |
|------------------------------------------------|----|
| 1. はじめに..... | 3 |
| 2. Actiphy StorageServer (ASS) のインストール | 4 |
| 3. Actiphy StorageServer (ASS) へ接続..... | 8 |
| 4. バケットの追加..... | 9 |
| 5. Actiphy StorageServer (ASS) のアンインストール | 11 |

1. はじめに

このガイドは、Linux OS 向けの Actiphy StorageServer (ASS) のインストール/アンインストール手順をまとめた専用ガイドです。


ASS では、Windows/Linux サーバーを ActiveImage Protector 2022 専用の高速でセキュアなバックアップ保存先ストレージとして構築可能です。

この資料では Linux OS (AlmaLinux 9 の root 権限) で設定をおこなっています。

また本資料では、最低限必要なコマンドラインについても解説をおこなっているため、ご参考になれば幸いです。

2. Actiphy StorageServer (ASS) のインストール

1. AlmaLinux 9 をインストールした環境で、インターネットに接続してください。



| | |
|----------------|----------------------------------------|
| デバイス名 | localhost > |
| Hardware Model | VMware, Inc. VMware Virtual Platform |
| メモリ | 3.6 GiB |
| プロセッサ | Intel® Core™ i7-6700 CPU @ 3.40GHz × 2 |
| グラフィック | llvmpipe (LLVM 15.0.7, 256 bits) |
| ディスク容量 | 21.5 GB |
| OS 名 | AlmaLinux 9.2 (Turquoise Kodkod) |
| OS の種類 | 64 ビット |
| GNOME のバージョン | 40.4.0 |
| ウィンドウシステム | Wayland |
| 仮想化 | VMware |
| ソフトウェアのアップデート | > |

2. root ユーザーでログインします。
3. AIP インストール用の ISO を読み込みます。
4. cd コマンドを実行し作業ディレクトリを ISO ファイル（もしくはインストールメディア）内のスクリプトが存在するディレクトリへ移動します。

AIP2022UP2.iso（Windows 向け）： [Setup] - [ASS_docker] ディレクトリ配下

```
[root@localhost ~]# cd /run/media/root/AIPBE/Setup/ASS_docker
```

AIP2022UP2Linux_b8661_20230919.iso（Linux 向け）： ISO 直下

```
[root@localhost ~]# cd /run/media/root/AIPBE
```

5. 利用している製品 ISO（もしくはインストールメディア）に合わせて、下記コマンドでスクリプトを実行します。

AIP2022UP2.iso（Windows 向け）：

「./aas_ass_install-packages.sh」

```
[root@localhost ASS_docker]# ./aas_ass_install-packages.sh
```

AIP2022UP2Linux_b8661_20230919.iso（Linux 向け）：

「./AIP-packages-tool.sh」

```
[root@localhost AIPBE]# ./AIP-packages-tool.sh
```

6. 起動後、以下のメニューが表示されるため、利用している製品 ISO（もしくはインストールメディア）に合わせて、インストールを実行してください。システムの再起動は不要です。

AIP2022UP2.iso（Windows 向け）：メニューの [3] を実行します。

※スクリプトが失敗する場合、スクリプトを AlmaLinux 環境上にコピーしてプロパティからプログラムとして実行可能なアクセス権を割り当てて実行します。

```
*****
**          AAS and ASS installation tool          **
*****

** 2023-09-12 10:14:03 -Ver 0.2.99 START
Rocky 9
System checking....
Free space in /opt/ is 12283MB.
OK, enough space in /opt/ for rescueboot LinuxBE.
Memory:4GB
OK, enough space in memory for set rescueboot LinuxBE.
This system is disabled SecureBoot.

[1] Install AAS
[2] Uninstall AAS
[3] Install StorageServer
[4] Uninstall StorageServer
[5] exit

Please select install menu from [1-5]:3
```

AIP2022UP2Linux_b8661_20230919.iso（Linux 向け）：メニューの [10] を実行します。

```
*****
**  ActiveImage Protector 2022 Linux installation tool  **
*****

** 2023-09-12 10:18:01 -Ver 0.2.99 START
Rocky 9
System checking....
Free space in /opt/ is 12283MB.
OK, enough space in /opt/ for rescueboot LinuxBE.
Memory:4GB
OK, enough space in memory for set rescueboot LinuxBE.
This system is disabled SecureBoot.

[1] Agent
[2] GUI
[3] [1]-[2]All
[4] Install Kernel-devel
[5] Install datto driver
[6] Install AIPLinux
[7] Uninstall datto driver
[8] Install AAS
[9] Uninstall AAS
[10] Install StorageServer
[11] Uninstall StorageServer
[12] help
[13] exit

Please select install menu from [1-13]:10
```

実行後、「Do you want to continue?」が表示されるため [y] を入力します。

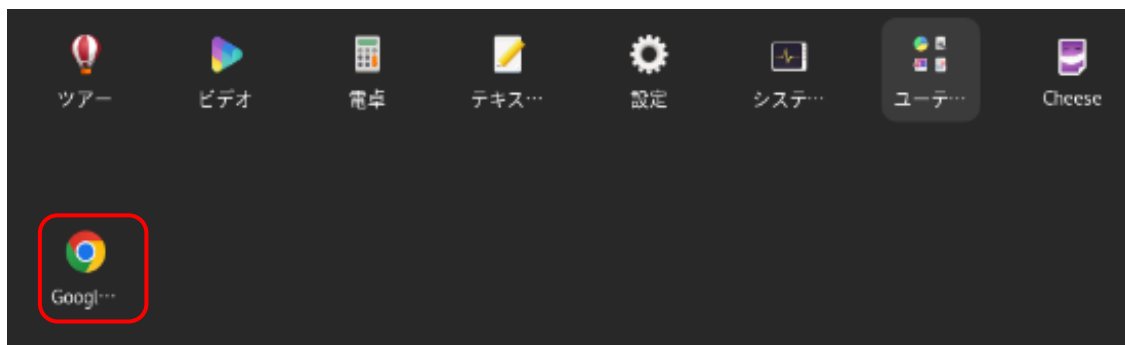
```
[ StorageServer install ]  
  
Already installed Authentication Service container.  
Do you want to continue? [Y/n] y
```

「Input to save directory of image.」が表示されたら、ActiveImage Protector のイメージ保存先とするフォルダーを指定します。

指定後、「do you want to continue?」が表示されるため [y] を入力します。

```
Input to save directory of image. [e.g.: /data ] :/home/ass  
The free space is 31G, do you want to continue? [Y/n] y
```

7. インストール完了後、アプリケーション一覧に Google Chrome が追加されます。



8. インストール環境に Actiphy Authentication Service (AAS) がインストール済み、かつ Windows 向け ISO から Actiphy StorageServer (ASS) をインストールした場合は、以下の設定が必要となります。

コマンド「vi /opt/storage/ass-logs/aip.ini」を実行します。

```
[root@localhost ~]# vi /opt/storage/ass-logs/aip.ini
```

※vi について

UNIX ベースの OS に標準で備わっているテキストエディタです。

今回、ASS の設定情報の保存されている「aip.ini」の内容を変更するために利用します。

※vi で今回利用するコマンド

- [i] : テキスト挿入モード (変更/追加する部分までカーソルを移動させてから入力)
- [Esc] キー : 挿入モード終了
- [:wq] : 保存して終了 (保存しない場合は [:q] で終了)

カーソルを「WebAccessPort=443」へ移動します。

```
[Web]
WebAccessPort=443
AuthenticationMode=2
AuthUsername=root
AuthPassword=73CC
EnableHSTS=0
```

「i」キーを入力すると挿入モードへ移行するため、443 を 8443 に変更します。

```
[Web]
WebAccessPort=8443
AuthenticationMode=2
AuthUsername=root
AuthPassword=73CC
EnableHSTS=0
-- 挿入 --
```

「Esc」キーを入力し挿入モードを終了させた後、「:wq」を入力し変更内容を保存します。

```
[Web]
WebAccessPort=8443
AuthenticationMode=2
AuthUsername=root
AuthPassword=73CC03F4F7EF2D6BA8837753F76A25B837563A441
06B6565702066350000
EnableHSTS=0
:wq
```

変更内容を適応させるため ASS、AAS を再起動させます。

コマンド「# docker ps」で各コンテナの ID を確認します。

```
[root@localhost ~]# docker ps
CONTAINER ID   IMAGE                                COMMAND                  CREATED        STATUS
PORTS
NAMES
3e49752c5353   localhost/aas:2.0.3.378             app:start                35 minutes ago Up 35 minute
s  0.0.0.0:55238-55239->55238-55239/udp, 0.0.0.0:443->443/tcp, 0.0.0.0:55236-55
237->55236-55237/tcp  actiphy_aas
a3ff56595570   localhost/ass:1.0.0.510             app:start                31 minutes ago Up 31 minute
s  0.0.0.0:8443->8443/tcp, 0.0.0.0:58337->58337/tcp, 0.0.0.0:58240->58240/udp
  actiphy_ass
```

表示された各コンテナをコマンド「# docker stop <コンテナ ID>」を実行し停止させます。

```
[root@localhost ~]# docker stop 3e49752c5353
3e49752c5353
[root@localhost ~]# docker stop a3ff56595570
a3ff56595570
```

停止後は自動で再起動されます。

3. Actiphy StorageServer (ASS) へ接続

1. Google Chrome を起動し ASS をインストールしたマシンの IP アドレスを入力して、ASS のコンソールに接続します。

例：<https://192.168.xxx.xxx>

※WebAccessPort を 8443 に変更している場合は IP アドレスの末尾に「:8443」を入力し接続してください。



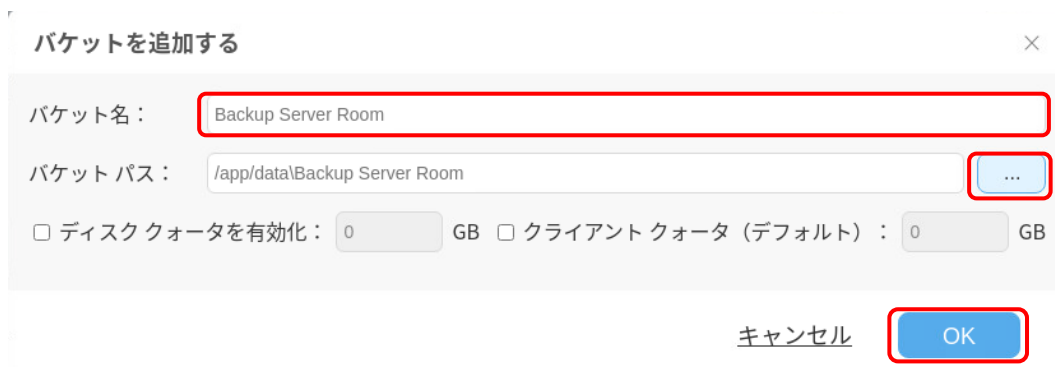
デフォルトのログイン名として、Username : root、Password : root でログインが可能です。

4. バケットの追加


1. バケットを追加する際はログイン後「バケットを追加する」をクリックしてください。
スクリプトの途中で指定した ActiveImage Protector のイメージ保存先とするフォルダー配下にバケットを作成します。





2. バケット名を入力およびバケットパスを指定し[OK]をクリックします。



3. 追加後はダッシュボードで詳細などが確認できます。

 受信：


 送信：


 クライアント：


0 バイト/分

0 バイト/分

0

 Backup Server Room



 バケットを追加する

バケット設定

×

バケット名：

バケット パス： 

バケット容量：

ディスク容量：

7GB/36GB

☐ ディスク クォータを有効化： GB

☐ クライアント クォータ (デフォルト)： GB

クライアント

| クライアント名 | クォータ |
|------------|------|
| データはありません。 | |

キャンセル

OK

5. Actiphy StorageServer (ASS) のアンインストール

1. cd コマンドを実行し作業ディレクトリを ISO ファイル（もしくはインストールメディア）内のスクリプトが存在するディレクトリへ移動します。

AIP2022UP2.iso（Windows 向け）：

[Setup] - [ASS_docker] ディレクトリ配下

```
[root@localhost ~]# cd /run/media/root/AIPBE/Setup/ASS_docker
```

AIP2022UP2Linux_b8661_20230919.iso（Linux 向け）：

ISO 直下

```
[root@localhost ~]# cd /run/media/root/AIPBE
```

2. 利用している製品 ISO（もしくはインストールメディア）に合わせて、下記コマンドでスクリプトを実行します。

AIP2022UP2.iso（Windows 向け）：

「./aas_ass_install-packages.sh」

```
[root@localhost ASS_docker]# ./aas_ass_install-packages.sh
```

AIP2022UP2Linux_b8661_20230919.iso（Linux 向け）：

「./AIP-packages-tool.sh」

```
[root@localhost AIPBE]# ./AIP-packages-tool.sh
```

3. 起動後、以下のメニューが表示されるため、利用している製品 ISO（もしくはインストールメディア）に合わせて、インストールを実行してください。システムの再起動は不要です。

AIP2022UP2.iso（Windows 向け）：メニューの[4]を実行します。

※スクリプトが失敗する場合、スクリプトを AlmaLinux 環境上にコピーしてプロパティからプログラムとして実行可能なアクセス権を割り当てて実行します。

```
[1] Install AAS
[2] Uninstall AAS
[3] Install StorageServer
[4] Uninstall StorageServer
[5] exit

Please select install menu from [1-5]:4
```

AIP2022UP2Linux_b8661_20230919.iso（Linux 向け）：メニューの[11]を実行します。

```
[1] Agent
[2] GUI
[3] [1]-[2]All
[4] Install Kernel-devel
[5] Install datto driver
[6] Install AIPLinux
[7] Uninstall datto driver
[8] Install AAS
[9] Uninstall AAS
[10] Install StorageServer
[11] Uninstall StorageServer
[12] help
[13] exit

Please select install menu from [1-13]:11
```

実行後、「Do you want to remove StorageServer data?」が表示されます。

ストレージサーバー内のデータを消去する場合は[y]、残す場合は[n]を入力します。

```
Do you want to remove StorageServer data? [Y/n] y
```

4. 「StorageServer remove successful.」が表示されればアンインストール完了です。

```
StorageServer remove successful.
```